



加々吉版

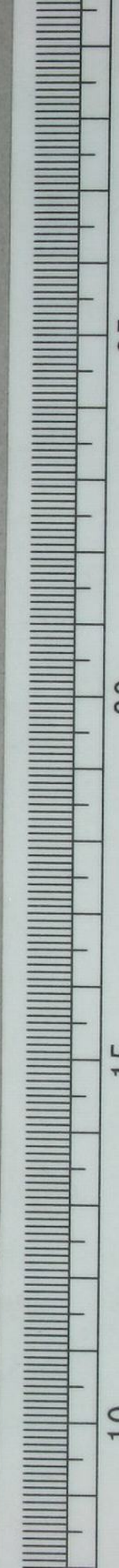
第二

軍記

島

かご

篠田次郎著



10

15

20

25

篠田仙果録

永島孟齋畫

482  
2

繪本 鹿兒島戰記

東京書肆

青成堂 版

鹿兒島戰記初編下之卷

東京

篠田仙果記

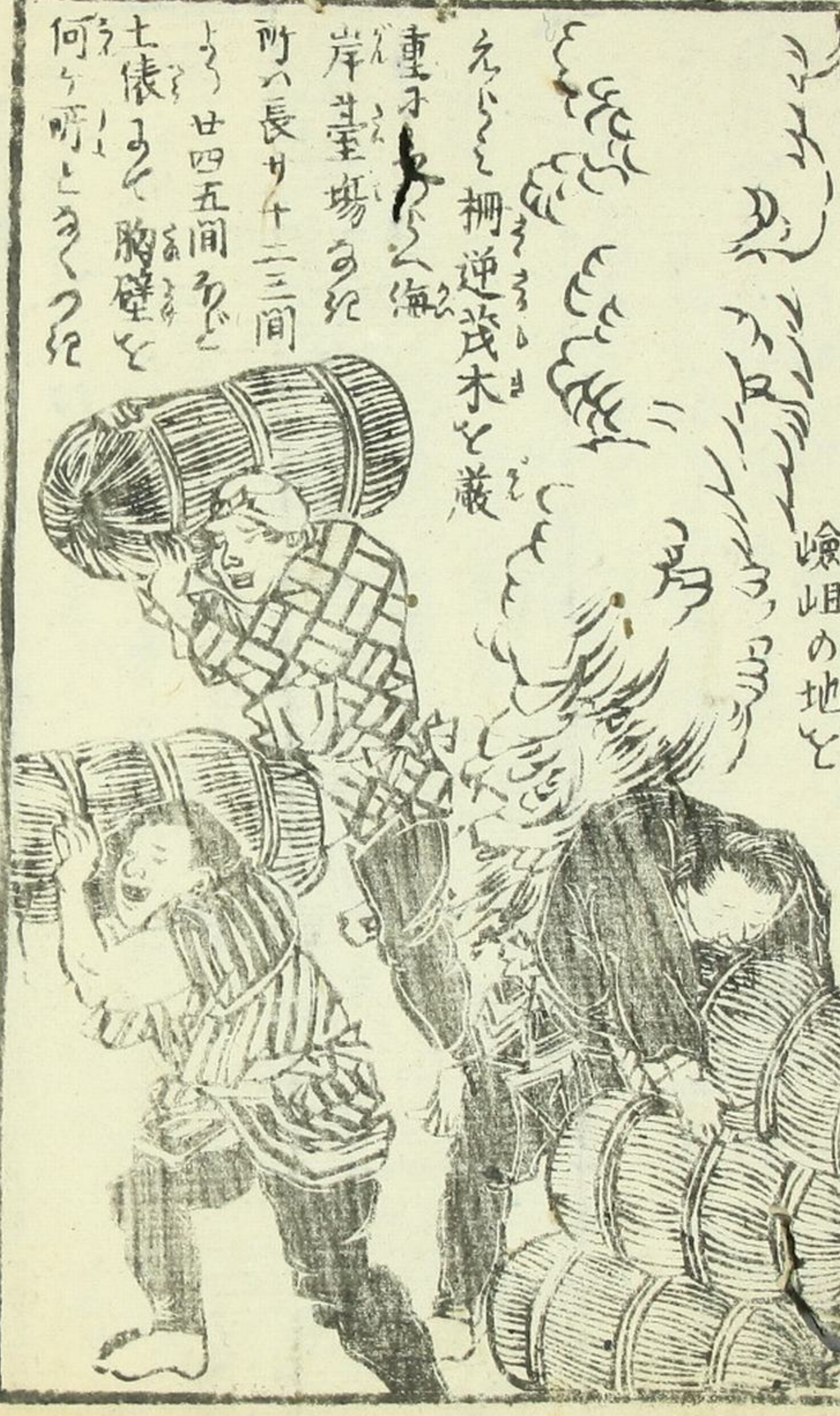
説の虚実へ知らぬと虽も別々録せる話ハち時鹿兒島の桐野氏の西々氏に向つて四方八方の語のついでに某日之を指揮致せし精兵十七大隊を卒し上京せんとりつれども果して此度生徒亦其意多かりて指揮のじ續いて篠原長山村田池上列府の諸上并小田島津家の家令たりし内田正風ゆづれも頭取ありと云ふ一説は西々氏自らの兵と卒し軍配とり出張せりと風説せり尚後の段と合せると一

そく薩州の人氣たるや勇を好んで死をあれず瑣細のるふを争論を闘競ハ及ぶハ常ありてありしりば且従前より其備あり島津家の直隊と錦虎隊とを三千人桐野氏の組を一担重隊とを三千人西々氏の組とを牛隊とを一万五千人の組とを一担重隊の壯

鹿兒島

たりの地話のさそあはる私学校生徒ら陸ハ

嶮岨の地と



えいこし柵逆茂木と蔵  
重オカハシ海  
岸サ聖場あり  
所ハ長サ十二三間  
よシ廿四五間あり  
土俵より胸壁と  
何ヶ所と多くつれ

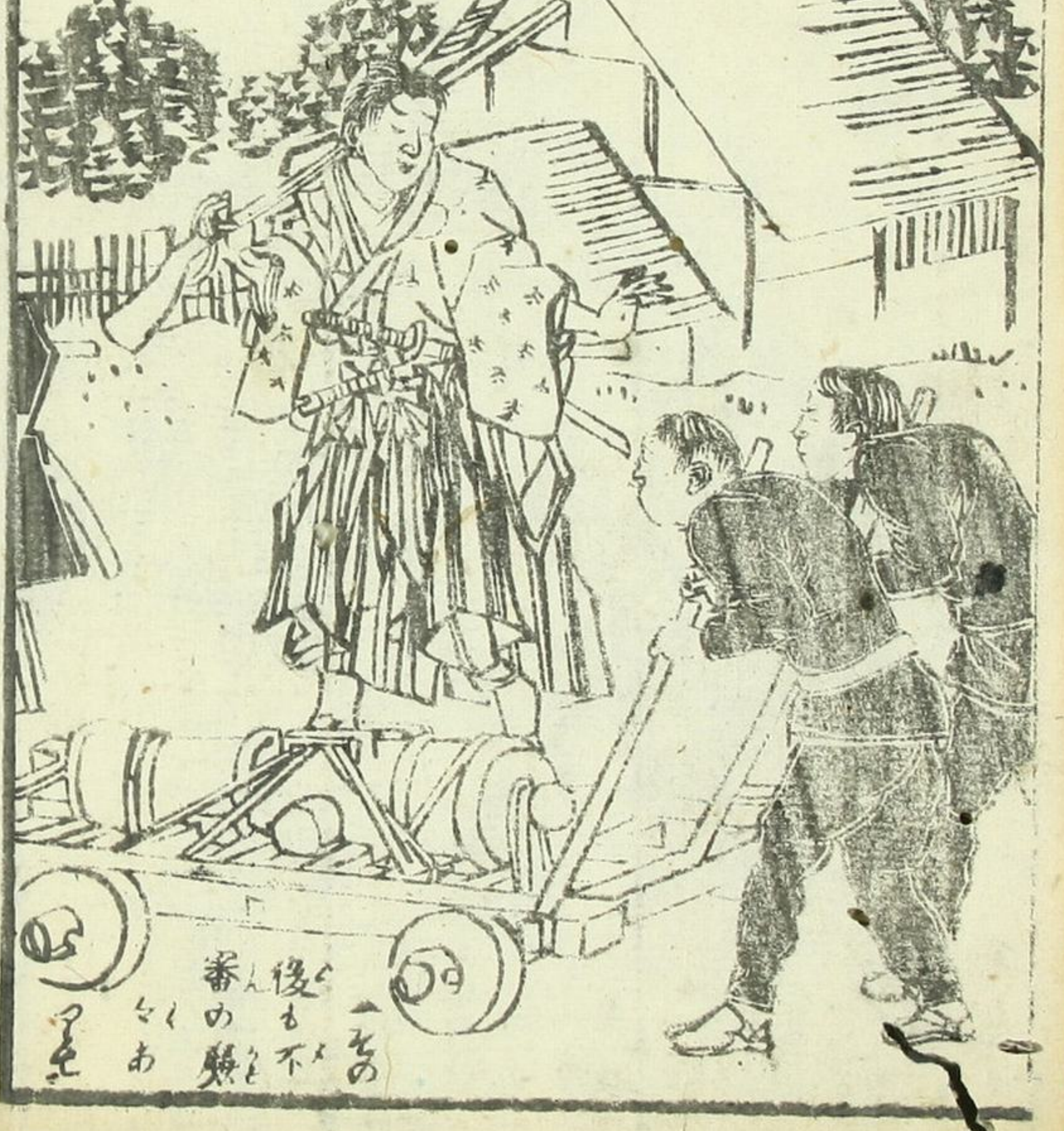
並へ通路を固めて旅人を入る



鹿見島と根城とありぬ然るにうねて  
通ちたるや但し生徒が暴挙の沙汰と  
疾くも傳聞るせしと  
日向國の宮寄の  
士族小鹿見島  
の暴徒方へ小銃  
弾薬を送り久留米  
へ鹿見島暴徒救百名  
入る柳川の士族ホも応援  
をささりありぬ熊本士族も志  
がりのあり筑前國甘水町へなる  
本土族屯集せりと佐土原の士族

鹿見島

三百人ほど延  
岡の士族を  
鹿兒島へ脱  
走せり又羽  
州鶴ヶ岡へも  
鹿兒島士族  
一名入ると  
事の松平某の  
宅を毎度集會  
あり高知縣下の上  
族にも何事ある  
諸方不出ま  
鹿兒島縣士



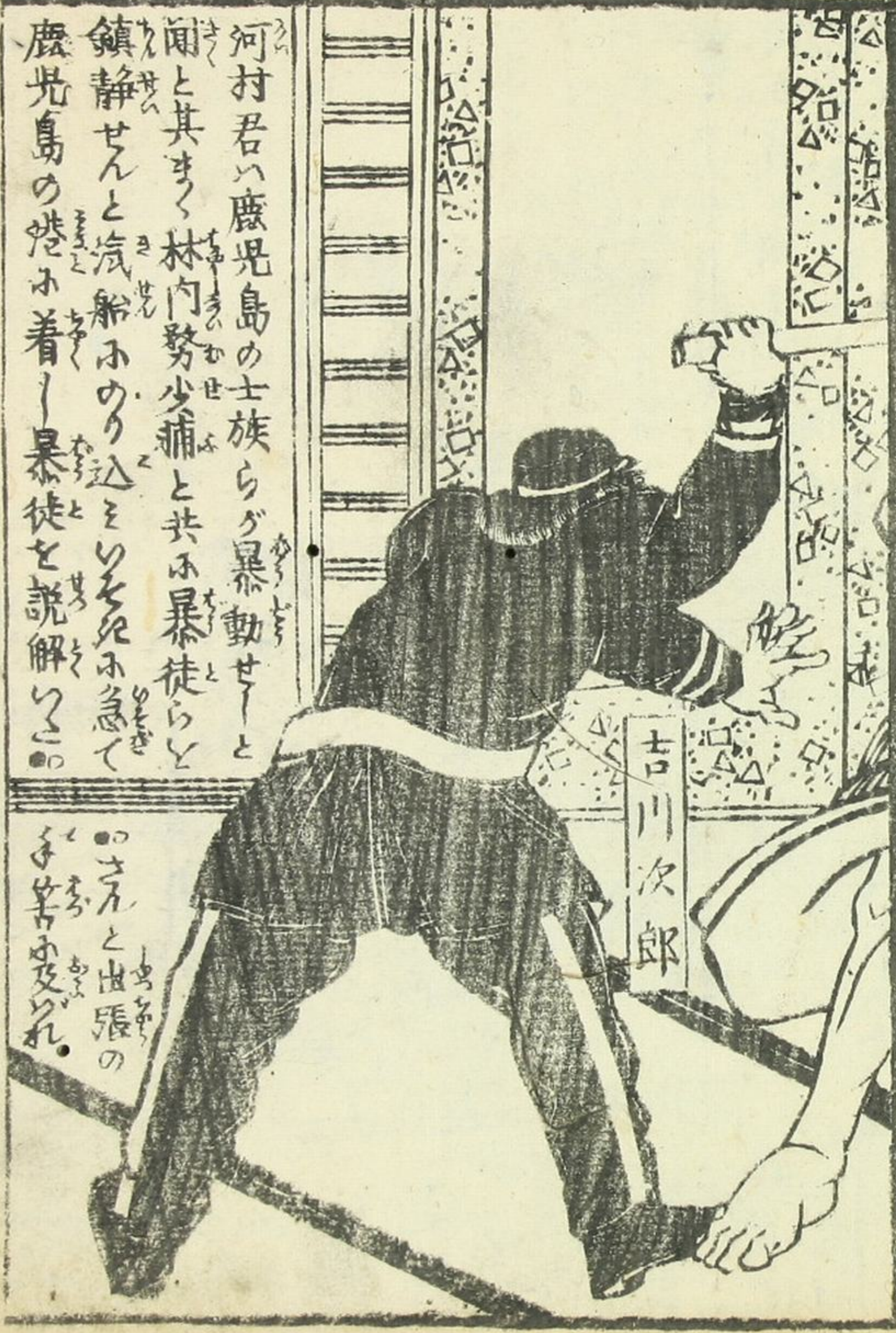
後にも  
番の懸  
あ

族の吉川次  
郎とける者  
の先  
年中  
大久保内  
勢々の  
執事  
あり  
酒  
色  
身持  
大久保  
家と



探索  
あり  
鹿兒島暴  
徒り荷擔  
事頭  
勘  
熊本  
縣士

平山容その余  
同縣士族四五  
名何れも此度  
の事件に  
組



河村君ハ鹿兒島の士族らガ暴動せしと  
聞と其まゝ林内勢少捕と共ハ暴徒らと  
鎮静せんと汽船小のり込を急いで  
鹿兒島の港に着し暴徒を説解し

吉川次郎

のさんと出張の  
手苦小及られ



河村君  
 小吏のあり  
 事やこれ  
 縣令より  
 許可を  
 ばら上り  
 面謁せん左  
 海兵を以て

暴徒は  
 入る本艦へ  
 びろをま  
 十三



軍艦の左右のハッチイラ數十艘へ  
 海兵を固めりかゝる処へ暴徒共  
 五六十人各帯刀洋銃巻  
 襠袴と着しあられ  
 洋服の出立ありて小舟は  
 うちのり軍艦不迫のき  
 頭取めし一人の男自ら  
 四等警部と名のり  
 河村君不固談の度  
 船を推参せり取  
 次はと有れば固めり  
 海兵これと聞ま  
 伺ひて指図見と

鹿角集

十一

此より大山縣令の此と云ふ一衆の込まれ河村君と對面ありまゝに  
 暴徒ハ人救加つりますく近くすこま來りてふよらハ軍艦と云ふ  
 べに形勢あるれバマてハ説諭ハ届くまゝと内務少輔林君大山縣令  
 とハ照議ありやがて海兵  
 とハハ纏の子と云ふ  
 出帆せんと廣見  
 島港と出發  
 ありて備後なる尾の道  
 入港あり同所より電報ゆて  
 締まるべと通下らるゝと  
 ○廣見島縣下暴動の事  
 英國領事ハまき及び迫傍る家とハ長崎表ハ在留の英國人々  
 襲撃せんもとりあさりと云つるひしや有りん横濱ハ碇泊世

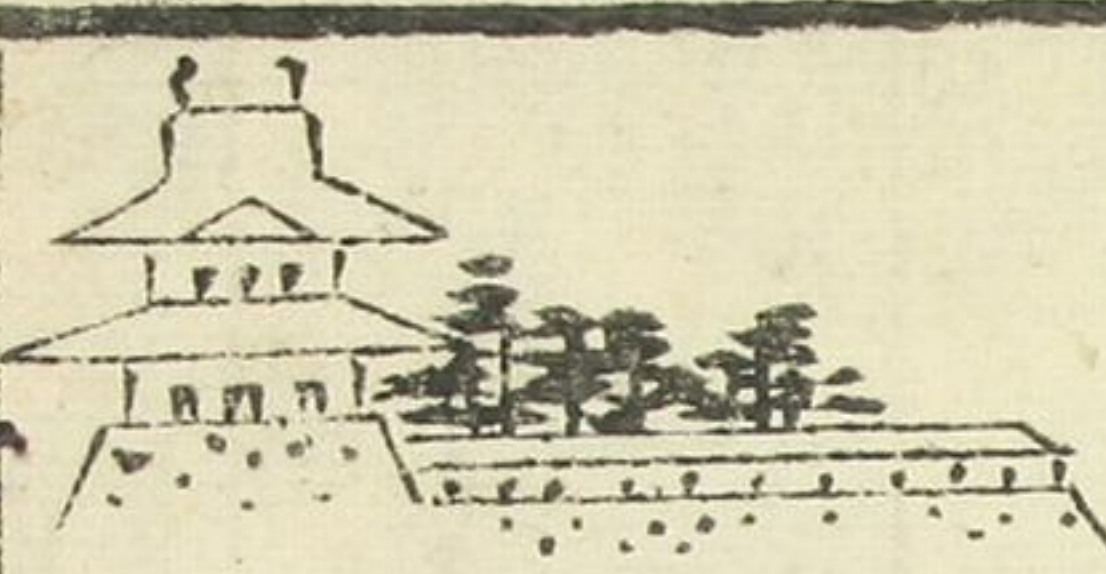


河村海軍大補

英の軍艦モテスト号ハ横濱と出帆長崎ハ入港せしハ既ハ長崎  
 在留の英國人も同地と引私ハ右軍艦のり  
 此一者も多かありと云ひあり  
 備又廣見島裁判所同地縣  
 廳の官負方も私学校生  
 徒ホガ暴る事  
 動と苦慮あり  
 是何とぞ事  
 件の細少ありと種々股議  
 何かまじりのしより血氣壯年ある生徒らもねが  
 条理と云ハ説諭のささるの理と云ハ必ハ無異と治るまゝ  
 裁判所より權少警部山崎某同縣廳よりハ警言部教名と云ハ仕度



大山縣令



込と来ると探りまに  
 表の鎮撫とともへ  
 ひそかに西の隆成五君と  
 殺さんとなおてあり  
 と朝々こよをわり  
 くれバこれとせし  
 暴徒とも  
 裏と計  
 途中  
 生捕ん  
 と  
 頭をい  
 理非尋向の  
 といもま  
 歩  
 松縄  
 生徒とも  
 生徒とも  
 といもま



といまれらる此を  
 編るや生徒方へ  
 報知しる者  
 おつた今とれ  
 警部救名のり  
 一  
 四十重  
 二十重  
 私学校へ  
 つまら





鹿兒島之  
暴徒縣廳と  
襲つんと

一説に鹿兒島縣へ在任せる他縣  
 の官員は之を激徒の爲めに由  
 せりまたりと此吏後の件と合せ  
 されば今般鹿兒島の事件ユカ  
 吏の西京の行在所より御布告相  
 多れつに同所御所内宮内省中へ太政官と  
 設けり去一月二十八日より議吏といひま  
 にお出席のかくく三條太政大臣。木戸内閣  
 顧問。大久保内務卿。山縣陸軍卿。伊藤工部  
 鳥尾陸軍中將。河村海軍大浦あり  
 議官ぐるまひに太政官の  
 書記ありと

さてこの私学校生徒らハ  
暴威ますます熾るれば

近傍より頑固士族ら

ぬけく小きころこれハ  
人数日々に増加ありぬ

さうハ兵の向ハさるさ死此方  
より押出さんとその準備

是より暴徒ら縣廳とあそむ

三々小つらる近縣へ探出し  
戦争の件ハ猶次編に記すべし

鹿兒島戦記初編下終



010190510374

吉田愛